

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	4471200180
法人名	医療法人 土生医院
事業所名	グループホーム あじさい
訪問調査日	平成21年 9月 8日
評価確定日	平成21年10月14日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4471200180
法人名	医療法人 土生医院
事業所名	グループホームあじさい
所在地	豊後大野市三重町内田六反2541番地 (電話)0974-22-8064

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年9月8日	評価確定日	平成21年10月14日

## 【情報提供票より】 (平成21年8月15日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成18年 4月 3日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

## (2)建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての1階部分	

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,525 円	その他の経費(月額)	700~770 円/日
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
		または1日当たり	1,200 円

## (4)利用者の概要 (平成21年8月15日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	0名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	78歳	最高	95歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人土生医院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 静かな住宅地の中にありながら、大きな栗の木が植えてある。広くゆったりとした敷地があり、建物の中も天井が高く、明るくゆとりが感じられる作りとなっている。また、最寄りのバス停や市の中心部からも近く利便性に優れた場所に立地している。
- 2 職員はチームワークが良くとれており、各々の介護に対する意識も高い。
- 3 同法人に病院があるため、利用者や家族の安心感がある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を受けて話し合いを行い、改善への取り組み計画を作成したが、その後の実施状況や評価が望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価については、管理者が主任と相談しながらとりまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、幅広い立場の人の参加で開催しており、施設運営の取り組みについての検討なども行っている。また、前回の会議では、和尚による「法話」を行うなどの取り組みもしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の請求書を送付する際に、利用者の日々の暮らしぶりや家族への行事参加の案内などを書いた手紙や写真を同封している。また、金銭管理は家族の訪問時に出納帳を確認した上でサインをもらっている。年2回の家族会の開催や全家族へのアンケートを行うなどして、家族の意見を反映できるようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の祭りや文化祭に参加している。また、利用者で作った貼り絵を展示している。保育園児の訪問や地域の看護学生ボランティアの受け入れも行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と共に考え、地域と共に暮らす理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールや事務所の分かりやすい場所に理念を掲げ、ミーティングや申し送り時に確認しながら、ケアの実践に繋げている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の祭りや文化祭に参加している。利用者が作った貼り絵を展示するなどしている。また、保育園児の訪問や地域の看護学生のボランティアの受け入れも行っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受け、改善へ向けての話し合いを行っている。また、今回の評価については、管理者が主任と相談しながらとりまとめている。	○	評価の意義を全職員で理解した上で自己評価を行い、外部評価結果を生かした改善への取り組みの実施やその評価を行うことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、幅広い立場の人々の参加で開催しており、施設運営の取り組みについての検討なども行っている。また、前回の会議では和尚による「法話」を行うなどの取り組みもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	オムツ券の申請など、制度などで分からない場合は市の担当者へ尋ねるなどしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書を送付する際に、利用者の日々の暮らしぶりや家族への行事参加の案内などを書いた手紙や写真を同封している。また、金銭管理は家族の訪問時に出納帳を確認した上でサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会の開催や全家族へのアンケートを行うなどして、家族の意見を反映できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できる限り馴染みの職員で対応できるように配慮している。やむをえず、異動や退職で職員が交代する際は、説明や挨拶をしており、家族には手紙でのお知らせもしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは、全ての職員が参加できるようにしている。毎月の全体会議で報告して内容を共有している。また、内部での勉強会や資格取得へ向けての援助も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム大分県連絡会へ加入している。また、他のグループホームとの交流もしており、訪問や意見交換を行うなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には他の利用者に紹介したり、職員も常に声かけや見守りをしている。また、家族や親しい方に訪問してもらうなどしながら、安心できる雰囲気を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が料理や漬物の漬け方、お膳の並べ方など教えてもらっている。休みの職員を利用者が気遣ってくれるなど支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアで利用者の言葉や態度から思いをくみ取っている。また、面会時に家族からも情報を聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を聞きながら、全職員で話し合い、介護計画の作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回開催のケアカンファレンスで利用者個々の介護計画期間に応じて見直しを行い、状態の変化の際は随時変更をしている。	○	状態の変化が無い場合でも、介護計画が利用者の現状に見合っているか評価を毎月行い、計画の内容は利用者本人にも説明することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの美容院の利用や、家族の状況に応じて入院や通院の支援など行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前のかかりつけ医でない利用者に対しては、当該法人の病院で毎月定期受診を行っている。また、急変時などは訪問診療など必要に応じた対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年「看取りの方針」を作成し、本人・家族・職員に説明を行い、方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新人職員には研修を行い、そのほかの職員も定例会やミーティングで勉強しながら意識向上に努めている。また、個人記録などの記録物は事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるが、朝ゆっくり起きたり、食事の内容を変更したりと、各自のリズムに合わせた対応をしている。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや、テーブルを拭いたり、職員やボランティアと手作りおやつを作るなど、好みや力を活かしながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は週6日設けているものの、1人当たり週2回の入浴としている。	○	ホーム側の都合で入浴の回数を決めるのではなく、できる限り利用者の希望や習慣に添った対応が求められる。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かして、来訪者への代表挨拶をしたり、字が上手な方に文字を書いてもらったり、調理の下ごしらえ、洗濯畳み、漬物の作り方などを教えてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、広い敷地の庭の散歩や併設の有料老人ホームの知人を訪ねたりしている。また、祭りの参加やドライブなど外出の機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、外へ出る方には職員が付き添って一緒に散歩するなどしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署と共同で火災避難訓練や施設内の防火避難訓練を開催している。また、非常災害時の食料品などの備蓄をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を立てているが、各自の病状に応じてカロリーなどの相談を、当該病院にしている。また、食事と水分の摂取量は記録している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光がふりそそぐ明るい食堂ホールのテーブルには、職員の家で栽培した季節の野菜や花がセンス良く飾ってある。出窓には手編みのわらじやお手玉などがさりげなくおいてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の写真などを壁に飾っている。しかし、ベッドと必要最小限のものしか置いていない部屋が多い。	○	利用者が安心して居心地よく過ごせるように、本人や家族と話し合いながら、その人らしい部屋作りの工夫が求められる。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人土生医院
(ユニット名)	グループホーム あじさい
所在地 (県・市町村名)	豊後大野市三重町内田六反2541
記入者名 (管理者)	小田部 さと子
記入日	平成 21 年 8 月 21 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者が、その人らしく生活できる開所時の理念を目指している。20年新しい理念の構築を考え用意していたが、取り組みができなかった。</p>	○	定例会、ミーティング等でもう一度図りたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ミーティング、申し送り時には理念を掘り下げして説明し、全職員で理念にそったケアの実践につなげている。事務所、厨房、ホールに理念を掲げている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族の面会時、利用者契約時に本人が今まで住んでいた時と同じように、家族、友人とのつながりを続けられるように気軽に面会して欲しいとお願いしている。</p>		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>住宅、文教地区にあるため、学生さんの行き来や、散歩中の人達と挨拶を交わしたりしている。自治会に加入している。区費を取りに見えたり、回覧板を持って来て頂いたり又班長さん宅へ回覧板を返しに行きお話ししたり、近隣の人達との関係を深めている。町内清掃作業の時には、道路際の草刈りをして下さった。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に加入し地域のお祭り、チューリップ祭り、文化祭にはご利用者の貼り絵を持参展示し参加している。又、保育園児が年数回訪問してくれ、藤華看護学生がボランティアとして活動しにきてくれるなど、地域との交流がある。</p>	○	地域交流が盛んな施設との交流などで学ばせてもらいもっと交流をひろげたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は、事業所での実践内容を踏まえた研修に参加している。平成20年は、認知症リーダー研修の受入を行い平成22年度から藤華医療技術専門学校学生の実習の受入を予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をすることで、自分たちが行っているサービスを見直す良い機会だと考えている。外部評価結果についてミーティングで報告し、改善点について話し合いをもっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開いている。参加者は、事業所の責任者、市の職員、家族の代表などが出席している。会議では利用者の現状報告やホームが行っているサービスの実際など議題も多岐にわたり、今後の取り組みの内容なども検討している。7月の会議では長徳寺和尚による「法話」を催した。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に数回、介護サービス事業所を対象にした研修会を市が主催している。それに積極的に参加してサービスの質の向上につなげている。市の窓口にもオムツ券の申請など直接尋ねていき質問したりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会は作っているが、現在までに該当事例はない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだ高齢者虐待防止法を定例会にて報告し、理解を深め全職員で虐待防止に努めている。特に介護の中で虐待にあたるものは何か、具体的に説明している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時契約書を読みながら内容の説明や利用料金、医療連携体制、ケアの取り組みなど説明し、家族の希望、不安など尋ね納得がいくよう説明し同意を得るようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食べたいもの、買い物、行事の参加など利用者に尋ねたり意見を聞くようにしている。利用者の言葉、態度から思いを察する努力をし、日々のケアに活かすよう心がけている。又、職員間で話し合い改善の努力を行っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用料請求書の手紙の中で月ごとの行事の様子、暮らしや写真、行事の報告、ご家族への行事への参加の呼びかけ等を紹介している。金銭管理は、出納伝票に記載し、訪問時ご家族にサインを頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にて参加者に無記名でのアンケートの働きかけをしたり一人ひとりから意見を聞いたり、面会時に家族とお話している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、要望はミーティング、定例会で聞くようにしている。日頃からコミュニケーションをとり意見等を出してもらい話し合っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事、外出の予定日は勤務表作成時に職員の出勤人数を増やし職員の急病時や利用者の状態に応じ同じ法人の職員にシフトに入ってもらっている。夜勤者は、日中から利用者との関係ができていない職員で対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも馴染みの職員が対応することが重要と考えている。異動、離職の場合は、利用者、ご家族に説明、挨拶をし手紙等でもお知らせし利用者のダメージを防ぐよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外での研修会には、なるべく職員全員が受講できるようにしている。毎月の定例会で報告し、全職員が共有できるようにしている。ケアマネージャー等の資格試験に備えて各種援助、勉強会を法人内で行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームくたみのもりと交流している。今年度はくたみのもりへ訪問した。業務内容、施設内見学、食事内容など意見交換をした。温泉風呂があり、ゆったりした雰囲気の中で利用者が思い思いの事をしておられた。次回は他施設との交流を試みたいと思っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室を用意し休憩時間には、ゆっくり休んでもらい気分転換を図っている。勤務表にて夜勤、希望の休みなど取り入れ均等性に努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けて支援をしている。 職員の心身の健康を保つ為に健康診断の実施をしている。 勤務表を法人に報告し勤務交代などその都度報告している。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用が決まれば、ホームに見学に来てもらったり、職員が面接に行き本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に、これまでの家族の苦勞、経緯についてゆっくり聞くことで把握し、事業所が行っているサービスの内容や現在利用されている方の暮らしぶり等も伝えている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時家族、本人の思いを聞き、場合によっては他の施設、ケアマネジャー、市などと連携をとっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の施設見学、家庭訪問を通じて信頼関係を築くようにしている。入居時は、他の利用者に紹介し馴染めるように声かけ見守っている。緊急に入居された方には、家族や本人と関わりの会った方に来てもらうなどし又、職員は常に声かけを忘れないように心がけ安心感を持ってもらうようにしている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを職員が理念として共有しており、普段から利用者にお膳の並べ方、料理など教えてもらう事が多い。夜勤業務の時など、「ご苦労さま」と声をかけて下さったり、休みの続いた次の朝など、心配して下さったりと気遣って下さる事がある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時ホームでの生活の様子をお伝えし一緒にお茶を飲んだり、季節ごとの衣類の交換、受診の依頼、行事等への参加などお伝えし協力をお願いしている。お盆にお墓参りがしたいという利用者の言葉があり、さっそく訪問時お伝えすると、お盆に帰省され「お墓参りした」と本人がうれしそうに話されました。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に可能な限り外泊や外出で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、機会あるごとに本人の様子を知らせている。また面会などを通じて本人の孤独感を癒すように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも友人などの面会を勧め、また家族に依頼して美容院等馴染みの店の利用を出来るだけ継続している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事、おやつ時に座る位置を人間関係に応じて配慮し、会話が円滑になるように心がけている。又、心身の状態や気分日々変化することもあるので注意深く見守る様になっている。入浴中など、個別に話を聞いたり、その時々に合わせて支援している。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後には年賀状など季節の挨拶を出したり、他の病院に移られた方には面会に伺うなどしている。退所後病院で亡くなられた方の葬儀、法要にお参りしご家族に挨拶を行い、本人、ご家族との関係が続くようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での言葉、態度などから本人の希望を汲み取るように努めている。また、家族との会話から情報を集め、入居されている方の目線に沿って理解するように注意している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族に家族介護状況表に生活歴や馴染みの暮らし方など記入して頂いている。本人自身の語りや家族、親戚等の訪問時などに少しずつ把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりのリズムに合わせリハビリ体操、食事内容、昼寝、就寝、排泄時間、排便有無を把握し、毎日の暮らしを支援している。本人の出来ること、出来ないことを確認しながら、出来ることに注目し日常生活にいかせるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや要望を開きミーティング、定例会などで職員の意見を反映しながら計画作成している。又、2施設合同のケアカンファレンスを通じて、ケアプランの勉強に取り組んでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、身体状態が変化した際には終了する前でもケアカンファレンスでプランの見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日常記録(食事量、水分量、排泄等の身体状況)、本人の言葉、エピソード等を表(メモ紙)に都度記載し職員全員が大まかな状況を確認出来るよう努め、個々のケース記録に職員の気づきや利用者の状態変を記載している。個別記録をもとに介護計画の見直しにも活かしている。朝、昼の申し送り時に一日のケアに活かすように職員間で情報を共有している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当該医療法人主治医による月1回の定期受診を行っている。H、21、7月から認知症対応型通所介護を始めご利用頂いている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、民生委員、消防署と連携を取り、協力を依頼している。ボランティアの訪問等を随時検討している。(神楽、演奏会等)		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望や体調に応じて、訪問理美容サービス、を受けている。市から居宅介護用品費の受給認定を受け給付券でオムツの購入をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	サービス利用の問い合わせ、相談など情報交換を行っている。運営推進委員会等を通じて情報交換、協力体制を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者に主治医が継続している場合を除き、当医療法人で定期受診を行っている。又急変時や体調不良時は訪問診療等で随時対処している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>施設の母体の医療法人診療所にその都度相談し指示を受けている。必要な場合は診療所経由で精神科等の受診をしている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護師もスタッフの一員として勤務している。法人診療所の看護師と連携をとり、相談、助言対応を行っていただいている。有床診療所であり、24時間連携対応可能である。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院は診療所経由で行うため医療機関との早期退院に向け、診療所医師が主におこなっているが随時診療所と連携を取りながら、頻繁に職員が見舞うようにし状態経過の情報収集に努め家族とも情報交換しながら退院支援を行っている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所時より診療所医師が家族と面談し、本人や家族の意思を確認している。その方針に従い必要な時には、診療所と連携して対処している。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>多くの場合は医療機関に転出を希望する事が多いが、看取りを希望する重度や終末期の利用者やその家族が不安なく安心して過ごせるように診療所医師、看護師と連携を図り、対応している。看取りを含め24時間体制で臨めるようにしている。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>事業所の支援センターの職員が本人に面会し家族や入院先の病院から情報を集めそれを職員同士で共有しダメージを最小限に食い止めるように支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>で</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>定例会、ミーティングで勉強し職員の意識向上に努め、日々の関わり方を管理者は常に点検し職員と考えるようにしている。個人記録は、事務室に保管している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者に合わせて声かけし、難聴の方には筆談で説明し意思表示が困難な方には表情を読みとったりし、出来るだけ強制しないように支援を行っている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、部屋でテレビを観られたり、休まれたり出来る様身体状況に合わせて支援を行っている。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>朝の更衣は、基本的に本人の希望で決めているが、自分で出来ない方には日頃の好みを考えながら支援している。理美容等は本人の馴染みの店を優先しているが、個々の状況に応じて訪問利用をしている。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の状況により普通食、キザミ食、ミキサー食を作り食べてもらえるよう工夫している。団子汁のメニューの時には、だんごをのばして汁の中に入れてたりと手伝って頂いている。ボランティア看護学生の訪問時に利用者と一緒にホットプレートでホットケーキを焼きクリーム、果物でトッピングしおやつ作りをしました。皆さんとても喜ばれ美味しかったと言われてました。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>正月、花見、敬老会等の行事ごとには、一人ひとりの希望を聞き飲み物をお出ししている。時々おやつ時には酒饅頭、ぜんざい、やせうま、コーヒーやココアなどお出しし、昔を思い出したり、味わって楽しめるよう支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレは各部屋に設置している。排泄チェック表を利用し、尿意のない方もその人のパターンに合わせてトイレ誘導を行い、夜間オムツ使用者も日中は、布パンツ、リハビリパンツにパットを使用。必ずトイレ誘導し快適な排泄の支援を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の入浴週6日とし、職員のローテーションの工夫、入浴中利用者やゆっくり会話を楽しんでもらえる様支援している。利用者の身体状況に応じて嫌がる人には、無理に入れようとせず、希望に沿う様になっている。体調不良のため入浴不可の利用者には、足浴、清拭の支援を行っている。冬場は入浴剤を入れ温泉気分を楽しんでもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出、受診、入浴された日などはなるべく早めの就寝を促している、その日の身体状況に応じて昼寝を勧めたり個人の状況に合わせ支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	もやしのヒゲ取り、タマネギの皮むき、食後のテーブル拭き、洗濯物たたみなど、できることを手伝ってもらい役割を大切にしている。漬け物、梅干しの作り方分量など利用者の知恵や経験を発揮する場面を作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族よりお金を預かり、買い物、理美容代など支払い出納帳に記入し、家族訪問時残金の確認サインを頂いている。職員が事務室で管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一部の利用者が家族訪問時自宅や親戚宅に外出されることがある。行事、ドライブ、お祭りの機会を作っているが、日常は受診、玄関先での日光浴などで戸外にでられる。又、敷地内に出来た有料老人ホームに入所されている知人を訪ねることがある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が「お盆に墓参りがしたい」と希望があり、家族訪問時お伝えし、外出されとても喜ばれた。また、利用者が季節感や利用者間のコミュニケーションを楽しんでもらえるように外出行事を計画し、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、家族等電話対応している。その際、子機等を利用したり、事務室の電話機を使いプライバシーの保護を配慮している。利用者が届いた手紙、小包などのお礼を職員が連絡し本人と話しが出来るよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を定めていないため、夜間面会に訪れる家族もあり、訪れやすい雰囲気づくりに心がけている。訪問時には、居室に案内、お茶や椅子をお持ちし、ゆっくり出来るよう支援している。又、家族との写真を撮り、居室に飾ったり、家族に差し上げている。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会、ミーティング等で身体拘束に関する勉強会を行い、職員の共有意識を図っている。夜間ベット柵の必要な方は家族に説明し了解を頂いて使用し、必要がなくなれば早急に使用をやめている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵をつけていない。利用者が外出しそうな態度をとったら、声かけし、話を聞いてあげたり、一緒に散歩に行ったり、共有しあっている。職員の見守り方法を徹底し日中玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	厨房での食事づくり時や、作業等を行いながらも、さりげなく利用者全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、数時間ごとに様子を確認し、すぐ対応出来るよう、職員の居場所の工夫をしている。常に廊下移動時は、各部屋の様子を伺うよう心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自室で水筒のお茶を飲まれる利用者の方には、こぼれないよう置く場所など把握し状況に合わせ注意し見守っている。自分でハサミ・爪切り・薬(服用)使用時は職員が付き添い見守りしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の身体状況からリスクを検討し把握する努力をしている。ヒヤリハットの検討を定例会で行い事故原因の今後の予防対策について検討し家族への説明と報告を行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量等は、バイタル表に記録し職員が情報を共有している。カロリー面は病状により当法人診療所に相談している。調理面は利用者の好みに応じて作っている。摂取しやすいようにミキサー、キザミ、粥食で対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健所主催の研修に参加、定例会で報告し都度勉強を行い、感染症の理解と認識に努めている。ペーパータオル、ゴム手袋などの使用で感染の拡大防止を日頃より行っている。インフルエンザ等の流行性のものは、家族の同意を得て、予防接種など職員ともに行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日メニューに合わせて購入している。冷蔵庫内は定期的に掃除、チェックを行い(賞味期限、鮮度状態)冷凍したり処分している。調理器具等は、熱湯・漂白消毒し清潔に努めている。厨房には「主な食中毒菌」のポスターを貼っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りには季節ごとの花を植え、ひと休みできるベンチをおいている。玄関には生花や利用者手作りの貼り絵を飾って明るい雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所になっている。料理の音匂い又、季節ごとの菖蒲湯、ゆず湯などは利用者の五感や季節感を取り入れ工夫している。玄関、テーブル等に花を飾ったり、掲示板へ月ごとの手作り作品を展示し季節感を出している。節句には人形等を飾るなど季節行事も取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファやホットカーペット(冬)に座卓を置き新聞を読んだり、洗濯物をたたんで頂いたり、仲の良い方とくつろげるスペースを作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを置かれ自由に観賞される様になっている。使い慣れた小物、椅子など持って来てもらっている。利用者の気に入っている写真等を持参してもらって自分の部屋であるという雰囲気作りをしている。寝具は基本的に業者が管理しているが、入所前に使用していた寝具を一部利用されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホール、トイレでは24時間換気扇使用。外気温を見ながら自然による換気も行っている。冷暖房は各部屋に設置しているが、主に廊下天井の扇風機で間節的に屋内の気温調節を行っている。また、必要に応じて各部屋の冷暖房も使用している。加湿器を使用し冬は湿度にも気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には段差なく、各部屋に洗面所、トイレや廊下、浴室に手摺りを設置し安全確保と自立への配慮をしている。歩行不安定、自室でテレビ観賞される方には、ベットを中央に設置したり、シルバーカー、杖、車椅子を状態に合わせて採りいれている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口に、一人ひとりの花マーク、のれんをつけている。部屋の位置がわからない利用者には、居室前にリボンやマスコットをつけるなどの配慮をしている。衣類の整頓を利用者と共に行っている。又、杖歩行の方への対応としてテーブルに杖置きを設置している。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭やプランターに花を植え利用者が日常的に楽しみながら活動できる環境を作っている。中庭の遊歩道を散歩したり、木陰においてあるベンチに利用者が涼んだり、日光浴できるような工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・運営母体が医療法人なので高齢者に必要な医療が密着しています。
- ・当施設は高台の適度の自然環境の中、文教地区にあります。
- ・人の流れもあり、四季折々の景観の変化の中で季節感をあじわう穏やかな生活が送れます。
- ・家庭的な手作りの食事を提供するよう努め、又、個別に対応した工夫をしている（キザミ食等）。